

平成15年度環境技術開発等推進費 事後評価結果のとりまとめ方について

事後評価については、従前から評価のコメント等のとりまとめをおこなってきたところですが、内閣府総合科学技術会議から評価を定量化するよう指導もあり、今年度は、評価の定量化を試行しました。

評価のとりまとめ方法について

- ・評価項目は、 研究の進め方 研究の成果 今後の発展への期待の3つです。
- ・評価結果は、それぞれの項目ごとに適切は ◯、普通は △、不適切は×としました。
- ・ ◯、△、×の数によって、AからDまでの10段階の総合評価を算出しました。

(表1参照)

今年度の試行を踏まえ、よりわかりやすいものとするため来年度以降改善を行っていく予定です。

表1

評価者	評価項目(上記 ◯、△、× は、順不同。)			総合評価
評価者1				A
評価者2				A ⁻
評価者3			×	B ⁺
評価者4				B
評価者5			×	B ⁻
評価者6		×	×	C ⁺
評価者7				C
評価者8			×	C ⁻
評価者9		×	×	D ⁺
評価者10	×	×	×	D

1. 環境中の複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究

研究代表者 厚生労働省 国立医薬品食品衛生研究所（徳島大）関澤 純

技術分野 次世代型環境リスク評価技術分野

研究期間 平成12年度～平成14年度
研究予算総額 211,829千円

1. 研究概要

環境中化学物質による人および野生生物の次世代への影響リスクについては、影響の懸念が大でありながら、複合的な要因が関係し情報が未整理、メカニズムに未解明な点が多い。

これまで環境リスク評価の対象は、大量生産物質、環境残留性物質、合成物質が中心であったが、本研究では(A)微量であっても強い生理活性を持つ物質や、恒常的に環境中に排出される物質、また複合的な影響の可能性に注意を払った新しい次世代影響リスク評価の枠組みを提案した。その上で、(B)人畜からの天然エストロゲンの環境排出による影響や、メス巻貝のオス化がよく知られている有機錫の場合など、野生生物と人の曝露および影響における共通点と違いや、(C)PCBやダイオキシン類などへの胚、胎児、小児など感受性の高い特定の時期（臨界期）における曝露と影響の問題と、生体反応の調節制御についても考慮を加え、さらに(D)化学形態の異なるいくつかの有機錫類や、他物質の代謝や吸収排泄に影響を及ぼす医薬品の環境排出の場合など、複数物質への曝露による問題を検討し、総合的に判断を加えた。

本研究の成果は国際的な共同研究にも反映され、またダイオキシンによる健康リスク評価の見直しのための新たな視点を与え、多くの学術論文発表につながった。

2. 評価結果

	研究の進め方	研究の成果	今後の発展への期待	総合評価
評価者 1				A ⁻
評価者 2				A ⁻
評価者 3				A
評価者 4			x	B ⁺
評価者 5				C

評価者の評価、コメント	研究者の回答、見解
<p>【評価者 1 のコメント】 複合化合物の次世代リスクの解明は重要であるが、この研究で革新的なリスク解明方法が発見されているとは言い難い。 種々の成果は出されている。 学術論文の発表数多し。</p>	<p>次世代影響リスク評価手法については関澤も一員として参加している国際的な専門家チームでもまだ真に画期的な内容を提示しきれず、むしろ事例の解析の積み重ねに基づく問題点の整理を行っている状況にある。</p>
<p>【評価者 2 のコメント】 対策物質が多岐にわたり過ぎて、研究班としての総括が欠けている。 複合作用については、ほとんど解明されていない。</p>	<p>データを総括し結果をわかりやすく提示するという点で不足していた。事例解析結果のリスクコミュニケーションに関する部分が削られたため、成果をわかりやすく整理し社会の理解を推進する</p>

<p>総括がぜひ必要である。そうでないと羊頭狗肉になる危険性がある。</p>	<p>という点で相当不十分にならざるを得なかった。 野生生物への影響と健康影響のリスクを統合的推進（本研究でも公表論文が数編あり）しており、来年の国際毒性学会でもセッションを設けて討論する。</p>
<p>【評価者3のコメント】なし</p>	
<p>【評価者4のコメント】 研究が多岐にわたるので、総合的な評価が困難である。 このような多くの研究者が分担するやり方では、いくらやってもリスク評価としてまとまらない。</p>	
<p>【評価者5のコメント】 研究内容が大変多様なせいかも知れないが、具体的な成果がまとまったという印象は得られない。それぞれの内容も、どれを取っても成果は不十分である。 結果に対して、結論を明言すべきである（結果の出しっ放しのところがある。）</p>	